

へきけんニュース

ホームページ https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/

メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



〈全へき連との連携協定に基づく事業として〉 1 単位時間毎の直接指導と間接指導の完全分離に着目した学年別指導の実践 - 士別市立多寄小学校で水上へき研センター員が試行実践 -



8月24日(火)から3週間にわたって、士別市立多寄小学校(森 広明校長, 学級数6, 児童数19名)で、全国へき地教育研究連盟と本学との連携協定に基づく初めての事業として新しい形の小学校社会科学年別指導の授業実践が行われた。

新しい形の学年別指導の授業実践を行ったのは、本学へき地・小規模校教育研究センター員の水上丈実教授(旭川校教職大学院)で、多寄小学校の5・6年生(大畠・戸田学級)の児童を対象に5年社会科産業学習「水産業のさかんな地域」、6年社会科歴史学習「大陸に学んだ国づくり」の単元12時間を実践し公開した。

この授業構想は、令和2年12月17日にオンラインで開催された本学へき地・小規模校教育研究センター主催の第18回へき地教育推進フォーラムの中のシンポジウム「日本の未来の教育を創造するへき地・小規模校教育の可能性」で、水上センター員が提案した授業構想であり、それが全国へき地教育研究連盟の柿崎会長や北海道へき地・複式教育研究連盟の温泉委員長の計らいで実践に至った。

水上センター員は、「私も6年間、士別市の小学校で複式学級の担任を経験したが、学年別指導に対する負担感や重圧を持ち続けていた。その負担感を払拭できないかと構想したのがこの指導法であり、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す単元レベルの問題解決学習の導入とGIGA構想による一人一台端末の活用が1単位時間毎の直接指導と間接指導の完全分離が可能にする。」と言う。その授業実践について紙面の許す限り紹介する。

1 士別市立多寄小学校の概要

士別市北部の名寄盆地中央に位置し、国道40号線と宗谷本線が校下の中心を南北に貫いている。畑作・稲作のほか、牛や羊を飼育している農家もある純農村地帯である。

明治35年に上多寄簡易教育所として認可され、開校119年となっている。平成21年に多寄中学校に併設という形で新校舎が落成された。令和元年度で生徒数の減少により多寄中学校が閉校となり、令和元年度から両校舎を多寄小学校で使用している。

平成30年に多寄地区学校運営協議会が設置され、多寄小放課後子ども教室が設置されるなど、学校と地域の連携が深い(学校要覧より抜粋)。

2 実践単元

〈5年生〉

大単元

「2 未来を支える食料生産」

中単元

「2 水産業のさかんな地域」

〈6年生〉

大単元 「2 日本の歴史」

中単元

「2 大陸に学んだ国づくり」
(教育出版小学社会)

3 実践対象

士別市立多寄小学校

5年生 3名

6年生 2名

〈担任〉

5・6年 大畠敏幸先生

5年こすもす(言)戸田健斗先生

4 実践単元の指導計画

右表の通り 各11時間

5 実践単元の目標

〈5年生の単元目標〉

我が国の水産業における食料生産について、漁師、加工場で働く人々、輸送に携わる人々などの工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、水産業に携わる人々の働きを考え表現することを通して、水産業に携わる人々は、生産性や品質(鮮度や安全性)を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解するとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、社会の一員として持続可能な水産業について考えようとする態度を養う。

表1 今回実践した小学校高学年社会科学年別指導計画

	第5学年「水産業のさかんな地域」	第6学年「大陸に学んだ国づくり」
8月24日・火⑤⑥	① 水産業のさかんな地域 課題づくり	前単元の振り返り 社会科学学習意識調査 -
	② 水産業のさかんな地域 ゴールイメージ	大陸に学んだ国づくり 課題づくり ①
25日・水①②	- 前単元の振り返り 社会科学学習意識調査	大陸に学んだ国づくり 学習計画 ②
	③ 根室のさんま漁 調べ学習 学習計画	飛鳥時代 調べ学習① ③ ゴールイメージ
31日・火⑤⑥	④ 根室のさんま漁 交流・概念形成	飛鳥時代 調べ学習② ④
	⑤ 長島のぶり養殖 調べ学習	飛鳥時代 交流・概念形成 ⑤
9月1日・水⑤⑥	⑥ 長島のぶり養殖 交流・概念形成	奈良時代 調べ学習 ⑥
	⑦ 水産業の変化と課題 持続可能な水産業 調べ学習	奈良時代 交流・概念形成 ⑦
6日・月③④	⑧ 水産業の変化と課題 持続可能な水産業 交流・概念形成	平安時代 調べ学習 ⑧
	⑨ 単元のまとめ① 持続可能な水産業提案プレゼン準備	平安時代 交流・概念形成 ⑨
7日・火②④	⑩ 単元のまとめ② 持続可能な水産業提案プレゼン準備	単元のまとめ① ⑩
	⑪ 単元のまとめ③ 【合同授業】 持続可能な水産業提案プレゼン発表	単元のまとめ② 大陸に学んだ国づくり解説プレゼン発表 ⑪

<6年生の単元目標>

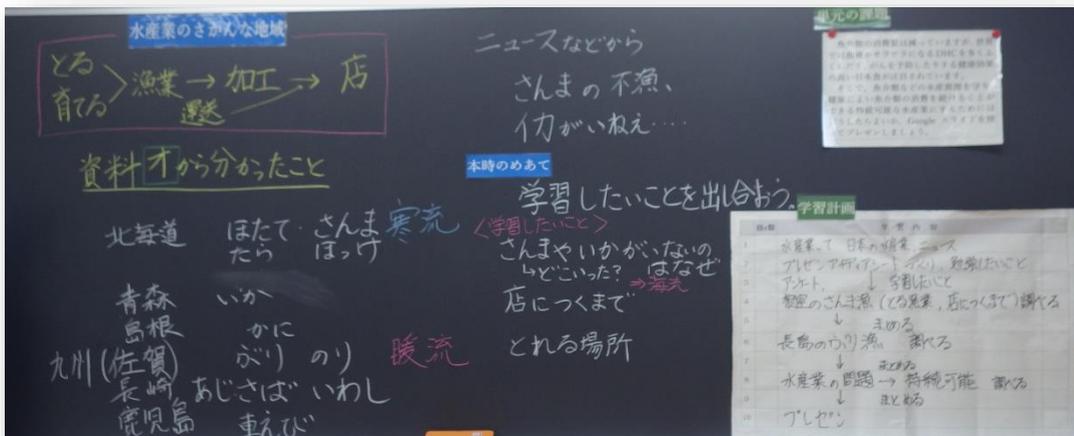
天皇を中心とした律令政治の確立や文化の変化について理解するとともに、遺跡や文化財、地図帳や年表などの各種基礎資料を通して、情報を適切に調べ、まとめ、当時の政治の仕組みや文化の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、当時の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考えたことを説明したり、それらを基に議論したりすることを通して、当時(飛鳥・奈良・平安の三時代)の日本の政治の仕組みについて、個の課題(文化や仏教などのその時代を見る視点)を含め、主体的に学習問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、日本の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。

6 実践の特色や実践を成立させる要件

(1) 単元レベルでの問題解決的な学習の実施ーパフォーマンス課題の設定が重要ー

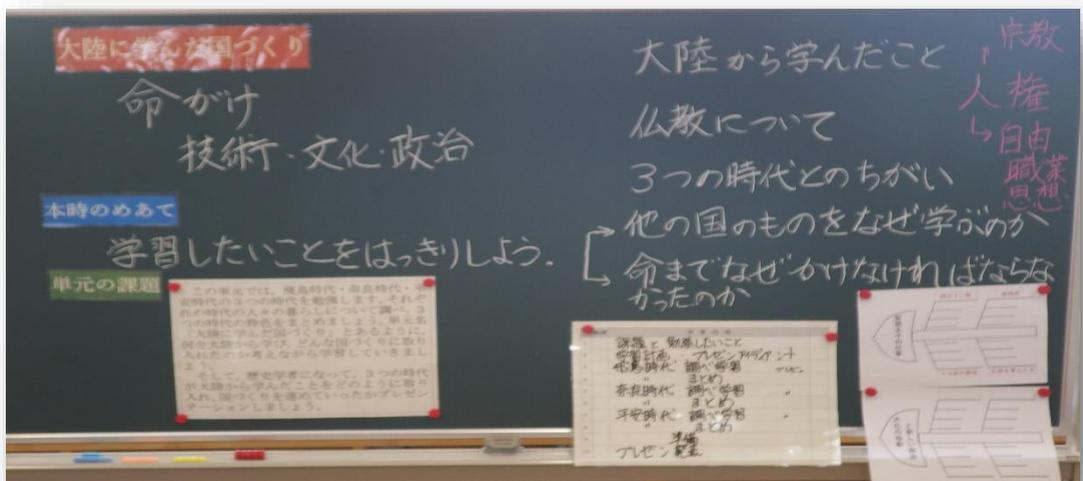
単元の導入で、単元を貫く課題意識をもたせ、ゴールの学びの姿をイメージさせていた。いわゆるパフォーマンス課題の考え方をういていた。そして次に、解決への見通しを持たせ、自己調整を図りながら児童自らが学びをつくっていくことができるようにしていた。

具体的に5年生では、近年、サンマやいかななどの漁獲量が減っていることや魚は健康食であり外国での魚の消費が増えているという事実から、持続可能な水産業にするための提案をプレゼンテーションで行うことを本単元のゴールに設定していた(図1)。



←
図1
5年生学習課題
づくりの板書

6年生では、歴史学者になって飛鳥・奈良・平安の三時代を解説することを本単元のゴールに設定するとともに、解説する視点(個の課題)を考えさせていた(図2)。



→
図2
6年生学習課題
づくりの板書

この単元全体の通読と遣唐使航海の様子や長安までの航路、20回の遣唐使派遣年表を提示した後、学習問題づくりを行わせた。そこでの6年生の2名の児童の気付きや関心は、同じではなかった。1名は、「なぜ遭難して死者までだしても中国に学びに行ったのか。自分の国づくりは独自に考えを出しても行えるのではないか。」というところに着目していた。また、もう1名の児童は、「なぜ聖徳太子も、聖武天皇も仏教を取り入れたのか。」に着目していたので、個の課題として追究し続けるように指導していた。

表1 5年生のパフォーマンス課題

魚介類の消費量は減っていますが、世界では血液がサラサラになるDHCを多くふくんだり、がんを予防したりする健康効果の高い日本食が注目されています。

そこで、魚介類などの水産資源を守り、健康によい魚介類の消費を続けることができる持続可能な水産業にするためにはどうしたらよいか、Googleスライドを使ってプレゼンしましょう。

表2 6年生のパフォーマンス課題

この単元では、飛鳥時代・奈良時代・平安時代の3つの時代を勉強します。それぞれの時代の人々の暮らしについて調べ、3つの時代の特色をまとめましょう。単元名「大陸に学んだ国づくり」とあるように、何を大陸から学び、どんな国づくりに取り入れたのか考えながら学習していきましょう。

そして、歴史学者になって、3つの時代が大陸から学んだことをどのように取り入れ、国づくりを進めていったかプレゼンしましょう。

(2) ICTの活用による1時間という長時間の間接指導(調べ活動)の実現・充実
 -学年ごとの大型モニターによるガイドと、一人一台端末で調べ学習を充実-

1単位時間全てを調べ学習にできるのかと疑問を持って授業参観に臨んだが、ICT活用が、その疑問を払拭してくれた。学年毎に大型モニターを設置し、調べ学習45分の使い方の目途を表示していた。大型モニターがガイドの役割を果たしていた(図3・図4)。

8月31日(火)6時間目「社会」

1 長島のぶり養殖の調べ学習

(1) 長島町でぶり養殖がさかんなわけ
 (2) どうやって育てるの?
 (3) 育てるくふうや努力
 (4) 出荷のくふうや努力
 ※ プレゼンに少しずつ取り組みましょう

2 20分たったら、中間交流



← 図3 5年生に提示したモニター画面

<調べ学習>

「鱈王」鱈の生産量・日本一の紹介 - Bing video
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005402337_00000

日本の漁業と共にブリ養殖漁 - Bing video
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005402339_00000

ブリの船上締め冷却 - Bing video
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005310022_00000

沖合でのぶり養殖 1分44秒
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005310026_00000

魚の養殖の課題 1分13秒
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005310024_00000



9月1日(水)5時間目「社会」

1 奈良時代の調べ学習

(1) フィッシュボーンでまとめる
 (2) 個人の課題のまとめ
 ① 仏教はなぜ
 ② 大陸に学ぶ方がよいか
 ※ プレゼンに少しずつ

2 20分たったら、中間交流



← 図4 6年生に提示したモニター画面

<調べ学習>

鑑真 10分
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005120233_00000

聖武天皇の決断 50秒
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005310756_00000

大仏ができるまで 2分6秒
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005310022_00000

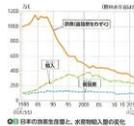
奈良時代の人々のくらし
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005310026_00000

行基の活動
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005310024_00000

また、20分が経過したところで調べ学習の進捗状況をノート交換などにより交流させていた。加えて教科書・資料集以外の調べ教材として「NHK for School」の中から参考になる動画のURLを一人一台の端末に送り、クリックすれば調べ活動に活用できるようにすることなどの工夫をしていた。それらの工夫により、児童は集中して学習に取り組んでいた。

(2) 単元のゴールとしてパフォーマンス(プレゼンテーション)の実際

① 5年生「持続可能な水産業提案プレゼンテーション大会」の実際

<p>持続可能な水産業について</p>  <p>5年 </p> <p style="text-align: right;">①</p>	<p>長島町のぶり漁</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2～3年かけて育てる • 大きさや動きの活発さ⇒餌の調節 • トラックや船を利用 • 食べ残して海が汚れる⇒病気が広がる⇒赤潮発生に繋がる • トレーサビリティ <p style="text-align: right;">⑥</p> 
<p>目次</p> <ul style="list-style-type: none"> • 根室のさんま漁①② • 店に水産物がつく前の動き <ul style="list-style-type: none"> • 長島町のぶり漁 • 水産業の変化と課題 • 課題の解決方法①② <ul style="list-style-type: none"> • 終わりに <p style="text-align: right;">②</p>	<p>水産業の変化と課題</p> <p>①さんまの生産量⇒近年多く減っている</p> <p>②水産業を続けようと思う人⇒減ってきている</p>  <p style="text-align: right;">⑦</p> 
<p>①根室のさんま漁</p> <ul style="list-style-type: none"> • 衛生面&新鮮さが大事 • 親潮が根室の東部に流れている⇒水産物が沢山とれる • 航空機、トラック、フェリーを利用 <p>値段と水あげ量⇒売り上げが決まる</p> <p style="text-align: right;">③</p>	<p>課題の解決方法</p> <p>①⇒もっと漁する(さんま漁)</p> <p>②⇒もっと漁をする安定して魚をとる</p>  <p style="text-align: right;">⑧</p> 
<p>②根室さんま漁</p> <ul style="list-style-type: none"> • 光に集まる習性を利用 • 空気や人の手が魚につかないように⇒素早く箱につめる • 道路の混み具合や天気情報をもとに経路を選択する <p style="text-align: right;">④</p>	<p>終わりに</p> <ul style="list-style-type: none"> • 外国からの輸入にあまり頼らない • ロシア連邦と日本は話し合うべき  <p style="text-align: right;">⑨</p> 
<p>店に水産物がつく前の動き</p> <p>①漁港での水あげ⇒漁港の魚市場⇒加工施設⇒スーパー</p> <p>②漁港での水あげ⇒漁港の魚市場⇒東京の魚市場⇒スーパー</p> <p style="text-align: right;">⑤</p>	<p><5年生 A さんのプレゼンのまとめ></p> <p>終わりに、魚介類が外国からたくさん輸入されていますが、輸入に頼らないほうがいいと思います。自国でとれた魚介類を多くの人に食べてもらい、日本でとれた魚介類のおいしさをたくさん知ってもらいたいと思います。そうしないと日本の水産業がなくなるからです。また、北方領土を占領しているロシア連邦と話し合うべきだと思います。本当は日本の領土だから返してほしいです。それかお互い話し合ったらよいと思います。</p>

② 6年生「歴史学者になって『大陸に学んだ国づくり』解説プレゼンテーション大会」の実際

飛鳥・奈良・平安時代の
国作りの様子と仏教の関わり

6年

①

目次

1. 飛鳥時代の国作りと仏教
2. 奈良時代の国作りと仏教
3. 平安時代の国作りと仏教
4. まとめ

②

1. 飛鳥時代の国作り

冠位十二階

③

遣隋使 大化の改新

④

1. 飛鳥時代と仏教

法隆寺

⑤

2. 奈良時代の国作り

平城京

⑥

遣唐使 正倉院

⑦

2. 奈良時代と仏教

東大寺

⑧

行基 鑑真

⑨

3. 平安時代の国作り

貴族 藤原氏

⑩

国風文化

安 → 衣 → あい
以 → じ → いう
宇 → 々 → う
衣 → ん → え
於 → ね → え
 お

⑪

平安時代と仏教

平等院鳳凰堂 遣唐使停止

⑫

4. まとめ

◎飛鳥時代

- ・聖徳太子が遣隋使を送ったり、憲法や冠位十二階をつくった。
- ・大化の改新が行われた。
- ・律令ができた。

⑬

◎奈良時代

- ・地方できん、都で伝染病が流行り世間が混乱した。
- ・東大寺、国分寺ができた。
- ・大陸から色々な技術が伝わった。

⑭

◎平安時代

- ・平安京ができた。
- ・国風文化がうまれた。

⑮

～感想～

⑯

〈6年生Bさんのプレゼンのまとめ〉

飛鳥時代には、律令ができて日本が栄えたのはよいが、農民の負担が大きくて大変そうだった。そして、奈良時代には、仏教や世界のつながりはよくなった。貴族にとってはよい時代ですが、農民は大変な時代だったと思います。平安時代は、日本独自の文化が生まれました。仏教を大切にすることは変わらなかった。農民の負担は変わらず大きかった。

8 参観者の感想

全国へき地教育研究連盟 柿崎 秀顕 会長(洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校長)

「今年4月に北海道教育大学と協力関係を結び、関連した取組として今回、多寄小学校で新しい形の学習指導の実践が行われた。先進的な授業ができています。直接指導で知識を学ぶだけでなく、吸収した内容を間接指導の中で定着していくのが大事である。」

(「北都新聞」令和3年9月1日号)

北海道へき地・複式教育研究連盟 温泉 敏 委員長(剣淵町立剣淵小学校長)

「子どもたちが自らの学びの調整を行う指導形態は、個別最適化に向かう新たな複式教育の試みとして様々な可能性を秘めている。」

(「北海道通信」令和3年9月13日号)

士別市立多寄小学校 5・6年担任 大畠 敏幸 教諭

「これまで児童から『調べ学習の時間が短い』『もっと調べたい』などの声が上がっていたが、意欲に応えることが難しかった。単元のゴールで行うプレゼンテーションが意欲を呼び起こす動機となっていることもあり、ノートを集めようとする、『家でも調べたい。』と困惑する児童もいた。直接指導と間接指導を完全に分離した授業では、児童たちが満足いくまで調べ学習に臨むことができるし、『さらなる追究につながっている』ことを実感している。」

(「北海道通信」令和3年9月13日号)

9 終わりに

実践を終えた水上センター員の感想で締めくくる。

まだ、実践が終了したばかりで、しっかりとした授業分析が終わっていない。今後は、参観していただいた先生方から意見を聞いて、実践レベルに具体化するために、まとめていきたいと考えている。北海道新聞や北海道通信などが記事にさせていただいたため、反響が多く、たくさんの複式校から指導案の提供を求められていることを考えると、やはり何らかの形で学年別指導を改善し、主体的・対話的で深い学びを実現するための方策を探っている学校が多いと考えている。全へき連、道教委とも連携を図り理論化したい。

現在、各学校では、新型コロナウイルス感染症の予防対策に余念がない。学校の臨時休業が続いていた時、この新型コロナウイルス感染症は、履修主義か習得主義かなどの論議を引き起こしたり、学びは一人一人に成立させなければならないものであることを再認識させてくれたりした。令和3年3月の中教審答申「令和の日本型学校教育を目指して」でも、個別最適な学びと協働的な学びの実現が求められている。「個別最適な学び」では、児童が自己調整しながら学習をすすめていくことができるよう指導することの重要性が指摘されており、児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うなどの指導の個別化が必要であると言われている。今回の実践は、直接指導と間接指導を1単位時間に完全分離することで、指導の個別化が容易になると考えている。また、一人一台端末などICTの活用は、指導の個別化に拍車をかけると考えている。個に応じたきめ細かな指導がより行いやすくなり、一人一人が個性を發揮し主役になることのできる指導方法であることを今回の実践を通して、実感することができた。指導方法の実践レベル化を急ぎたい。